

ある日、コロンビア滞在中に、コロンビア人が誘ってくれ、フットサルに。

フットサルの試合相手もチームメイトもほとんどが知らない人。
ただ、コロンビア人たちなのですぐに打ち解け、フットサルの試合がスタート。。。

いきなり、相手から強烈なタックルを受ける。
パスをミスするものなら、怒りを受ける。
シュートを決めるものなら、手厚い祝福を受ける。

といった具合に本当に熱い！！

こうして彼らは、常に練習試合であれ、試合で100%を出すことで、常にレベルアップをしている。
練習試合用のモチベーションや、望み方ではなくて、試合では常に100%全力！

相手へのタックルだって全力。

日本では、仲間に100%でぶつかっていきなんて、多分ないのでは？
と誤ってしまいます。

"練習が試合に表れる"というのがスポーツではよく言われますが、まさにコロンビア人は練習で100%を出せるからこそ、試合でも100%をだせるのだなぁと感じました。

どこか遠慮がある日本人の私には、すごく感じさせられるフットサルの試合でした。

話が逸れましたが、、

そのフットサルの経験から、私も"練習で彼らを楽しませること(試合をするなど、全力を出す機会を提供する)"をするにはどうすべきかを念頭に置いて活動を行うことができました。

彼らの楽しむとは、今この環境を全力で楽しむ。
彼らの全力とは、相手に遠慮をしない。中途半端な気持ちで挑まない。スポーツであれば、とことん勝敗にこだわる。
そんなところかなと思います。

日本人の私たちは、試合までの過程を楽しめるもの。
これをした先には、あれが待っている！！
だから苦しくても頑張る。

一長一短ではありますが、お互いにいいところがあるからこそ、お互いの良いところをうまく噛み合わせながら活動していく大変さと面白さを感じながら、2年間を過ごしました。

"楽しむ"
という言葉の本質は、一人一人にとって違うものですが、私は「本気にならないと楽しくない。本気な人が楽しみを感じられる。」と思っています。

次号では、2年間活動をする間に何度も壁にぶつかるもの。
"語学"について、語学を覚えるには何をすべきか。というアドバイスも含めた話をしていければと思います。

今月号から連載の新企画、谷口さんの執筆活動についてご紹介をしていくものです。毎日の暮らしの中で、私たちは多くのことを感じ、考え、時には空想に浸りながら過ごしています。多忙な時間を過ごしていると、感じていることに気づかなかつたり、表現したりすることはなかなかできないことも多いのではないのでしょうか。

谷口さんが小説を書くようになったきっかけや、小説の物語はどのようにして生まれるのかなど、普段聞くことができない小説の誕生秘話をお届けいたします。小説はブログにアップされていますので、そちらから作品に触れていただくことができます！ぜひ、谷口さんが作る物語と世界観をお楽しみください！

【自己紹介】



私は1956年（昭和31年）に、東京の三鷹市で生まれ、小学校の1学期の途中まで東京で過ごしました。その後、6年間の小学校生活および2年間弱の中学校生活を新潟県の上越市で送りました。中学校3年の1学期に香川県の宇多津町の中学校に転校になり、その後、丸亀市の高校で3年間学びました。父の仕事の関係でこの2回（東京→新潟県、新潟県→香川県）の転校経験は私を形づくる上で大きな影響を与えた出来事だったと思います。

私は中学3年生の夏休みに大阪万博（1970年開催）に行きました。その時、万博会場で外国の方に思い切って当時習っていた英語で話しかけました。結果はなんと通じたんです。それが私の人生初の異文化体験です。

私は協力隊OBではありませんが、以前から日本を飛び出して海外で活動しようと志す若い人たちに強い関心がありました。そこで、2020年の春にKOCAの一般会員になりました。

会員になった後、2021年に協力隊活動報告集「TOGETHER」の記事作成の一部お手伝いをさせていただきました。現在は「協力隊ナビ」への参加など楽しい活動をさせていただいています。

私は2016年から醍醐いきいき市民活動センターで働いており、地域社会で市民活動を行う方々のサポートを行っています。

趣味は、京都のカフェ（コーヒー店）巡りと庭園巡りです。気のおもむくままに京都の街を探索しています。そこで見聞きしたこと、感じたことを「小説」という手法を使って記録しています。

京都のカフェや庭園の魅力を「小説」で描き、これまで5作品をつくりました。これから、10作品を目標に作品を作り続けたいと思っています。また「小説」を世界に向けて主にSNSで発信していきたいと考えており、小説の英訳を少しずつ進めているところです。

会員の皆様で、カフェや庭園に興味のある方がおられたら、是非教えて下さい！

今後京都の庭園を中心に京都の街の散策を、会員の皆様と一緒にできれば嬉しく思います。

●谷口さんにインタビュー

1. 小説を書くと思ったきっかけは？

2018年に「醍醐でムービー」という活動を有志で行い、醍醐を舞台にした15分の短編映画を1年がかりでつくりました。その時、脚本づくりの大変さや面白さを肌で感じました。

脚本づくりの経験があったので、それが現在の小説の創作につながっています。

2. 小説を書き上げるまでに大体どのくらいの時間がかかりますか？

第1作目を2021年の7月につくりました。2022年の11月まで5作品をつくりましたが、1作品をつくるのに平均3か月ぐらいです。

3. 小説を書くのはどこで書くことが多いですか？

小説の構想を練るのは、カフェや電車の中や京都の街を散策している時です。実際に小説を書くのは自宅が主で、たまにカフェで書きます。

4. 現在発表している作品で、谷口さんの一番のお気に入りは何？どの部分が気に入っていますか？

第1作目の「murmurな時間」です。カフェそのもの（店主、コーヒーの味、外観や内装のデザイン）の魅力を、ほのかな感じで描けたと思います。

5. 今後、書きたいテーマはありますか？

飲食店の開業を含めた起業です。農園など食の問題、農業の問題を描きたいです。若者たちの夢—地球規模の活動、世界を舞台にした活動も描きたいです。

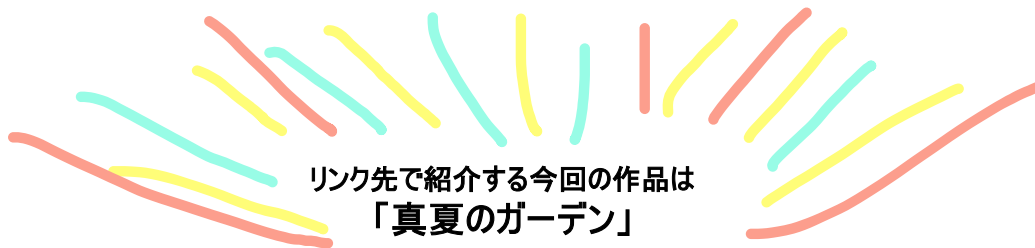
6. 小説を書く中で大変なことは何ですか？

テーマを何にするかを決めて、現地で実際に取材をすすめることです。そして、構成を考えるのに時間をかけます。タイトルはすぐ決まる時もあるのですが、第5作目「真夏のガーデン」は、なかなかタイトルを決めるのに難航しました。

次回は、作品ができるまでの背景や執筆秘話についての質問をしていきます！



小説が気になった方はこちら！
谷口さんの小説はこちらから読めます！



「DIG into KYOTO」(京都の深堀り)の活動として第5弾の小説です。

小説を読み終わった最後には、物語の中で出てくる京都のスポット紹介もあるのが魅力です。
小説を楽しんだ後には、聖地巡りをする事ができるんです。

読むだけで終わりではなく、次は読者自身で足を運んでストーリーの世界を楽しむ仕掛けとなっており、知らなかった京都の土地に導いてくれます。

まさしく、京都の深堀り体験。

厳しい寒さの中、真夏を思い起こして暖かくなり、
今年の夏のお出かけスポットもこれで決まり！

次のページで紹介される、ビブリオバトルへも持ち込んで
作品の良さを伝えたいかなのでは？

エピソード1

益井博史さん、ビブリオバトルって何ですか？

今月号から連載の新企画2つ目は、益井さんによる「読書を通して、ヒーローになれる。」をお届けします。益井さんがビブリオバトルに出会ってから現在に至るまでの活動、ビブリオバトルってどんなことをするの？その魅力とは！？など、様々な視点からお伝えしていきます。

初回となる今回は、益井さんの愛するビブリオバトルとは何なのか、そしてどんなところが面白いのかを、皆さんにお届けいたします！



【自己紹介】

益井 博史 (Masui Hirofumi)

- 青年海外協力隊2015 (H27) 年度3次隊 / 青少年活動 / ソロモン
- 立命館大学情報理工学部創発システム研究室 客員研究員
- 一般社団法人ビブリオバトル協会 職員
- ビブリオバトル普及委員会 理事
- 大学卒業後、まちづくり会社を経て青年海外協力隊に。帰国後、ビブリオバトル考案者の研究室で論文執筆や大会運営に携わる。
- 著書『ソロモン諸島でビブリオバトル』(子どもの未来社)
- 最近の趣味：サウナめぐり

皆さま、こんにちは！この度、KOCA NEWSで連載の機会をいただきました。このコーナーでは、僕の大好きな「ビブリオバトル」という本を使ったゲームの話や、それにまつわる様々なエピソードをご紹介できたらと思っています。大学生のときこのゲームと出会い、魅力にとりつかれた僕は、初めての就職、まちづくり、青年海外協力隊、そして研究、現在の仕事に至るまで、振り返るとビブリオバトルを核にした人生を歩んでしまっていました。そんな僕が、あなたを「ビブリオバトル沼」に引きずり込む気持ち100%でお届けするので、読むときは注意してくださいね！（ふふふ…）

ビブリオバトルって何？～人を通して本を知る。本を通して人を知る～

本を読んだ後、感動を誰かに伝えたくてたまらなくなった経験はありますか？心を大きく動かす本に巡り会えたこと自体がラッキーですが、もしその感動をじっくり聴いてくれる人が身近にいるなら、あなたはさらに大きな幸運の持ち主です。家族や友人、恋人が相手さえ、本を読んだ感想を聴いてもらうのは意外と難しいものです。感動を口にできず歯がゆい思いをしたことがある人も多いのではないのでしょうか。ビブリオバトルは、そんなあなたにぴったり！5分間で自分が持ってきた本の魅力を紹介し、参加者が「一番読みたくなった本」に投票することでチャンプ本を決める、スポーツのようなコミュニケーションゲームです。

ルールは次の4つだけ。とっても簡単です。

- ① 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- ② 順番に1人5分間で本を紹介する。
- ③ それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分間行う。
- ④ 全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が1人1票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。



気づきましたか？あなたは今、「5分間好きな本の魅力を思う存分語っていい権利」を手に入れました！おめでとうございます！

しかも素敵なことに、ビブリオバトルの参加者はとても真剣にあなたの話に耳を傾けてくれます。なぜなら、彼らは全員が「審査員」として、投票する本を決めるミッションを担っているからです。真剣に聴いていないと決められません。

えっ？「誰かに伝えたい本はないし、そもそもどんな本が面白いのかよくわからない」？大丈夫。

そんなあなたは、ビブリオバトルに話を聴きに行けばいいんです！発表参加者（よくバトラーと呼ばれます）の人たちは、あなたが読みたくなるように精一杯本の魅力を伝えようとしてくれます。なぜなら、あなたに票を入れてほしいから！

加えて、ビブリオバトルの発表では、必ずと言っていいほど本の情報だけでなく「バトラーの人となり」が開示されます。

なぜその本を選んだのか？なぜその本に感動したのか？こうした問いから浮かび上がる「その人ならではの」魅力が、参加者に伝わってきます。それが本当に楽しいんです！ビブリオバトルが、「人を通して本を知る。本を通して人を知る」というフレーズで表される所以です。

「でも、このゲームを楽しめるのって、人前でしゃべるのが得意な人だけなんじゃない？」ですって！？とんでもありません。そもそもビブリオバトルに出会った当時の僕は…（次回へ続く）

● 今回の一冊：『ビブリオバトルへ、ようこそ！』（濱野京子 作 / 森川泉 絵 / あかね書房）

小学校の図書委員会で開かれることになったビブリオバトル。柚希は憧れの幸哉くんに注目されようとバトラーに挑戦します！ビブリオバトルの魅力がぎゅっと詰まった児童小説です。

青年海外協力隊員 現地レポート

寺門 香音さん（2021-1 マラウイ共和国
小学校教育）から現地レポートが届きました。

こんにちは。私は4年間綾部市の小学校で教師として働いた後、現職で協力隊に参加しています。任国はアフリカ、マラウイ共和国です。アフリカで3番目に大きいマラウイ湖に面した町、モンキーベイというところが私の任地です。別名「アフリカの温かい心」と呼ばれているだけあり、人々はとても親切で、最貧国にも関わらず安心して暮らすことができます。



マラウイ湖（モンキーベイ）



粘土工作の様子

私は主に近隣の小学校数校を巡回し、体育・音楽・図工・ダンス・裁縫・演劇などが統合された“Expressive Arts”という教科の指導をしています。文化や教科書が全く違い、日本での経験をそのまま生かすことはできませんが、現地にあるものを使って試行錯誤しながら授業を考える日々です。「アリの巣を用いて粘土工作をする」「自然の物から絵の具を作る」など、物が十分にある日本では考え付かないことばかりですが、新たな発見がありとても面白いです。マラウイの子ども達はとても人懐っこく反応もいいので、毎日の授業はとても楽しいです。



作品を完成させた子どもたち



町のマンゴー屋さん

また、生活の面では、親切で愉快的な現地の人々に支えられ元気に過ごすことができます。停電、断水、火起こしなどが日常となる生活に最初は戸惑いましたが、現地の人たちに支えられながら日々を送る中で、この生活にも充分慣れました。今はゆっくり流れる時間の中で、現地の人たちと共に過ごす時間がとても幸せです。

マラウイでの生活も残り少しくなりました。町の人たちとたわいもない会話をしながらゆっくり過ごすこと、鶏の鳴き声で目覚めること、火起こしをしてのんびり調理をすること、どれも日本ではできないことです。残された任期は、お世話になった人たちと、のんびり楽しく過ごす時間を大切にしたいです。

行事予定のお知らせ

3月

好き&得意を表現しよう ひらめき皆議

2020年の協力隊活動報告集「Together」、2021年の「世界のティータイム」、2022年の大学生BARでの協力隊ナビ。いずれの活動も、協力隊OBOGの声やつながりで生まれました。今年もアイデア出しから一緒にやります！みなさんの好きなことやできること、応援したい気持ちを持ち寄ってKOCAを通じてどんなことができるか話しましょう。

日時：3月5日（日）14:00開場&受付 14:30-16:30

場所：バンビオ一番館 6階 配膳試食室

内容：自己紹介アイスブレイク、2023年6月～12月に向けたKOCAの活動アイデア出し

参加申込：Email：office@koca.or.jp またはFacebook KOCAページへのメッセージ

2022年度4次隊 表敬訪問・壮行会

日時：3月（未定）

4月

英語でSDGsゲーム (Learn about SDGs through games)

「2030SDGs」というカードゲームを通じて、英語で楽しみながらSDGsについて学んでみませんか。

日時：4月2日（日）14:00開場 14:30-17:30

場所：新大宮広間（京都市北区紫竹西桃ノ本町48番地）

京都市バス東高縄町下車徒歩6分

対象：英語で会話できる小学5年生以上～大学生、社会人

定員：12名（先着順）

申込：office@koca.or.jp

5月

令和5年度通常総会

日時：5月14日（日）午後

場所：キャンパスプラザ京都（予定）（京都駅下車徒歩5分）

会員のみなさま、ご多用のところお手数ですが、ご予約くださいますようよろしくお願いいたします。

KOCA NEWS2月号、いかがでしたか。今後もみなさんからの記事の投稿を募集しています。

KOCAネットへの登録をお願いします。

各種行事の案内や、会員の関連する行事を紹介しています。

申し込みは E-mail：office@koca.or.jp

HP Facebook も見てね！

KOCA HP



KOCA Facebook

